

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
荒川区立汐入小学校	荒川区教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
荒川区立汐入小学校	https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/SIOIRI-E/effort/1019709.html

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果・学校関係者評価結果の公表 URL
荒川区立汐入小学校	https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/SIOIRI-E/effort/1019709.html

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

【効果】

- ・年間34時間の「情報科」を創設し、第1学年から第6学年まで系統的に基本的な操作スキル、プログラミング的思考、情報モラル・セキュリティの指導を行ったことで、学習の基盤となる資質・能力、情報活用能力が高まった。
- ・教科横断的にタブレットPCを活用する意図を明確にした年間指導計画を作成し、指導を重ねたことで、児童が主体的に学習に取り組み、自らの考えをまとめたり、友達と協働しながら解決したり姿が見られた。

【課題】

- ・年間34時間で設定した「情報科」の学習内容や授業時数が、児童が身につけた情報活用能力や資質・能力を適切に見取るための客観的な評価方法の見直しを行っていくことが今後の課題である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

【効果】

- ・各教科・領域を通して情報活用能力を育成するための指導計画を作成し、第1学年から第6学年まで系統的に指導を実施したことで、児童が自ら情報を収集・整理し、考えを深めたり発表したりする学習活動が定着し、「主体的・対話的で深い学び」との関連が図られた。
- ・「情報科」の設置を契機として教員の指導スキル向上を含めた組織的な推進体制が整ったことで、特定の教科にとどまらず、学校の教育活動全体においてタブレットPCの有効活用が広がり、学力向上や学習環境の質の向上につながっている。

【課題】

- ・デジタルツールの利便性が高まる一方で、思考の深まりや対話的な学びを支える手書きや対話、図書資料の活用などの「アナログ」のよさも踏まえ、双方を効果的に組み合わせた指導法を更に研究・開発していく必要がある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

(1) 学習内容等の見直しと評価方法の検証

「情報科」の目標を踏まえ、学習内容や授業時数が児童の情報活用能力をより身に付けさせる上で効果的であるか、各学年の到達目標に応じた見取り・評価の基準が適切であるかを、今後も引き続き授業実践を通じた効果検証を行っていく。

(2) 区内への成果の発信

汐入小学校における「情報科」の先進的な取組内容を保護者・地域に発信するとともに、実践成果や指導方法を区立全小・中学校へ広く普及させ、荒川区全体の教育の質的向上に還元していく。